

現行法令の運用上の課題 (ver.2)

課題	説明	原因	盛土規制法等による対応見込み	都としての対応
抑止力の不足	<ul style="list-style-type: none"> 罰則を気にせず不適正な盛土を行われる場合が存在 	<ul style="list-style-type: none"> 条例の罰則の抑止力が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 法により、懲役刑及び罰金刑について、条例による罰則の上限より高い水準に強化（法人重課により最大3億円の罰金） 	<ul style="list-style-type: none"> 盛土規制法を適切に運用
	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が是正指導段階でのりくらしと対応する場合は考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 是正指導に応じない場合、行政処分を行うタイミングの規定がない 	<ul style="list-style-type: none"> 「不法盛土発見時の現認方法、手続等のガイドライン」を整備予定（提言より） 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインに基づき、盛土規制法を適切に運用
監視の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> 不適正な盛土行為の把握が難しく、対処すべき行為者の特定が困難な場合が存在 	<ul style="list-style-type: none"> 日常業務の中で、不適正な行為を常時監視することは困難 	—	<ul style="list-style-type: none"> 国に対し監視のための制度構築を提案していくとともに、都としても対応を検討
	<ul style="list-style-type: none"> 残土受入可能量を超過する残土が受入地に搬入されている場合が存在 	<ul style="list-style-type: none"> 残土受入地の状況を確認する根拠法令がないため 	<ul style="list-style-type: none"> 法により、土石の一時堆積についても許可・届出対象に追加され、定期報告が義務化 	<ul style="list-style-type: none"> 都関連工事においては、搬出先の許可・届出状況と土砂受領書の確認を徹底
	<ul style="list-style-type: none"> 搬出土量によっては、建設発生土の搬出先を把握できない 	<ul style="list-style-type: none"> 搬出土量1,000m³未満の工事では、再生資源利用促進計画書の作成対象とならないため 	<ul style="list-style-type: none"> 再生資源利用促進計画の作成対象工事の拡大等を実施（提言より） 	<ul style="list-style-type: none"> 都関連工事においては、現在も全ての工事が作成対象 国に対し建設発生土の流れを管理する仕組みを提案
財政的負担	<ul style="list-style-type: none"> 不適正な盛土に対する行政代執行により、自治体に財政負担が生じる場合が存在 	<ul style="list-style-type: none"> 代執行費用の追求ができない恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 国から地方公共団体に対し、行政代執行を含めた積極的対応を支援（提言より） 	<ul style="list-style-type: none"> 不適正な盛土に対して、適切に対応 国に対し、不適正盛土対策のための基金創設を提案